

ひそやかな存在

わずかな木もれ陽からすら身を避けて

山路をいく

それでいて

いそどりを急ぐ灌木の葉

相手を選んで存在を主張する

まわりの草もみじ

大樹に寄りかかった姿勢を貫き

見上げた大木の幹にからまる

肩寄せ合って自分の生を紡いできた

ひそやかな存在

きみ

